

2月16日（火）

13日の夜、福島県沖を震源とするマグニチュード7.3の地震が発生し、宮城県、福島県で最大震度6強を観測したとのこと。続いて今日は、爆弾低気圧と呼ばれる台風並みの低気圧により、北海道襟裳岬で最大瞬間風速44.9メートルを観測したというニュースがありました。10年前の東北の地震、津波は、ついこの間のように鮮明に甦ります。同年9月には大塔町をはじめ各地で土砂災害が発生したことも思い出されます。昨日は和歌山で震度4の地震があり、五條市でも震度1の揺れがありました。

南海・東南海地震が30年以内に起きる確率が高いと、近年言われてきました。数年前に南海・東南海地震に関する講演会で聞いた話（うろ覚えですが）では、五條市でも震度5以上の揺れが100秒続くということでした。阪神淡路大震災のとき五條市は震度4でしたが、「外へ避難したほうがいいのでは」と思ったほど強い揺れでした。揺れている時間はさほど長くなかったと思いますが、少し恐怖を覚えました。それ以上の地震が1分半も続けばいったいどうなるのでしょうか。家屋の倒壊がなくても、恐怖で昇天してしまいそうです。

その講演会では、過去の地震の発生から推測されることとして、南海・東南海地震は2023年だったか2032年だったか（記憶があいまい）に発生するかもという話でした。いずれにしても、そう遠くない話です。来るべき日に備えて、そろそろ本気で準備しなければならないのかなと、ニュースを見ていて思いました。